

特集 女性をとりまく環境と支援

女性をとりまく環境は、年々変化し、国や県、市町が行っている制度も増えています。
また男女共同参画に取り組む企業・団体なども増えてきました。
山口県下の取組を3つのケースからご紹介いたします。

企業での取組

東洋鋼板株式会社下松工場

仕事と育児の両立は難しいテーマの一つです。本人の意思だけではなく、企業の意識やバックアップが不可欠であるからです。近年、育児支援、介護支援に取り組む企業も増えてきました。東洋鋼板株式会社下松工場の例を、紹介します。



▲東洋鋼板株式会社下松工場、総務人事部の松本豊治さんと宮崎文子さん。

Q 女性をとりまく労働環境は変化してきています。東洋鋼板株式会社に
おいては、平成18年ファミリー・フレ

ンドリー企業表彰で山口労働局長賞を受賞されています。具体的には、どのような取組をされているのか教えてください。

松本 いろいろな就業規則の改定を行っていきます。例えば、妊娠中および幼児を養育する従業員を支援する柔軟な勤務時間制度（始業・終業時間の1時間繰り上げまたは繰り下げ措置）を設けています。また、小学就学前の幼児のけが、病気のための看護休暇を取得することができず。

次に、諸規定の改定については、今までは1才に満たない乳幼児を養育する従業員が対象でしたが、1才6ヶ月までを対象に取得できるようにしました。特別な条件なしに男女を問わず取得することができず。

また、出産祝金を子1人につき、今までの1万円から20万円に増

額いたしました。入学祝い金も3000円から1万円に増額いたしました。

このほか積立年休制度というものがあります。これは年次有給休暇を1年に5日を限度に、年をまたいで繰り越すことができる制度であり、最高50日まで積み立てられます。通常の年休40日と合わせると90日間の年休を取得することができます。積立年休制度はファミリーにやさしい制度です。

この制度を設けて10年以上になります。今までは、病気やケガ、ボランティアのみの使用でしたが、看護、介護、養育にも使えるようになりました。

2006年4月、下松市美里町に鋼板幼稚園を新築し、企業内託児所「星の子保育園」を併設するとともに下松地区以外の

従業員に対して、託児利用補助制度（子1人に対して月額2万円まで補助）を設けました。

Q どういうきっかけで併設されたのですか？

松本 鋼板幼稚園は1953年3月に設立されましたが、05年から実施した中期経営計画の一環として、幼稚園の建て替えと保育園の新設が実現しました。幼稚園と保育園は同じ敷地内の建物ですが、入り口を別にし、施設も全く別になっています。この「星の子保育園」は、東洋鋼板グループの従業員のみが利用できる施設で現在定員15人のところ14人が入園しています。保育料は、通常の半額程度の負担で利用することができず。

鋼板幼稚園は、従業員の子と
もさん24人を含む134人が通っ

ていて地域に貢献しています。昨年度、今年度ともに募集開始から2日間で定員になりました。保育園ができたことにより従業員の子どもさんは、同一敷地内にある保育園から幼稚園にリレ1保育ができるようになりました。将来的には小学校入学まで一環した保育ができるようになればいいと思います。



▲工場敷地内の新築幼稚園。保育園も併設。従業員の福利厚生のほか、企業の地域貢献という側面も持つ。

Q 保育園の開園時間を教えてください。

宮崎 通常保育は7時30分～17時30分で、19時30分まで延長保育が可能です。就業時間は8時～16時30分で、送迎の時間に余裕があります。

Q いろいろな取組をされて、男女従業員のそれぞれ反応はどうですか？
松本 表彰を受けて東洋鋼飯の知名度が上がり、社内でも業績表彰

を受けました。また、本社、工場等で取組の内容について発表したことにより、社内で制度等についての認知度や意識の向上につながりました。

宮崎 育児休業については、残念ながら男性の取得者は現在のところいません。女性取得者は05～06年においては、出産した人の6人中4人が1年以上の育児休業をとっています。

松本 育児休業が、仕事に影響があるので取りにくいということがないように、制度を活用してもらえよう今後も引き続き、努力していきたいなれないかと思っております。育児休業を取ると、どうしても、周囲の負担は大きくなりますので、職場の理解が必要になってきます。現在は以前と比べて仕事のローテーション、マニュアル作りなどが行われ、良い方向に進んでいます。

Q 現在の状況として、従業員の男女の割合はどのようになっていますか？
宮崎 男性1300人、女性90人です。三交替勤務もあるため男性の比率が高くなっています。女性は、事務職で三交替勤務はありません。最近では、結婚を機に退職する人はほとんどいなくなりましたが、出産、育児で退職していく女性は

何人かいます。

Q 今後は、どのような取組を考えていらっしゃいますか？

松本 男女を問わず優秀な人材を募集し、今後も、福利厚生をしっかりとしたより働きやすい職場にしていきたいです。また、女性が結婚・出産しても仕事が続けられるよう企業として応援したいと思っています。

また、新設した保育園も良い保育園といわれるよう力を入れていきたいと思っています。

(取材・辻本・花形)



ファミリー・フレンドリー企業とは…？

ファミリー・フレンドリー企業とは、仕事と育児・介護とが両立できるような様々な制度を持ち、多様な働き方を労働者が選択できるような取組を行う企業をいいます。

具体的には4つの柱からなるものです。

①法を上回る基準の育児・介護休業制度を規定しており、かつ、実際に利用されていること
分割取得できる育児休業制度
過半数日を超える介護休業制度
年5日を超える子ども看護休暇制度 等

②仕事と家庭のバランスに配慮した柔軟な働き方ができる制度をもっており、かつ、実際に利用されていること
育児や介護のための短時間勤務制度
フレックスタイム制 等

③仕事と家庭の両立を可能にするその他の制度を規定しており、かつ、実際に利用されていること
事業所内託児施設
育児介護サービス利用料の補助措置 等

④仕事と家庭との両立がしやすい企業文化をもつこと

育児・介護休業制度等の利用がしやすい雰囲気であること
特に、男性労働者も利用しやすい雰囲気であること
両立について、経営トップ、管理職の理解があること 等

厚生労働省HPより(抜粋)

「コトハニ」にての取組 山口ファミリー・サポート・センター

山口県内に14箇所設置されている「ファミリー・サポート・センター」。今回は、援助の実際を、サポート側、ユーザー側、両方にお聞きしました。「現場の声」を「紹介いたします」。

●サポートを利用している人



▲人見英恵さん(山口県立大学教授)

遅くなくても子どもを見てもらえるという安心感で、思いつき仕事に打ち込めました。

Q 子どもさんの反応は?

人見 家族の一員のように接していたとき、石津さんの娘さんとも親しくなりました。子どもも喜んで行き、楽しんでいるようです。お料理やお買い物なども手伝わせてもらい、ずいぶんと成長しました。

Q ファミリーサポートを利用するにあたって、何が一番大切だと思いますか?

人見 相互の信頼でしょうか。それと、感謝の気持ちですね。子どもをしっかり見守ってもらえるので、仕事もしっかりできるという安心感が、子どもにも良い影響を与えています。

Q ファミリーサポートに限らず、働く女性たちのために整ってほしい施設や制度はありますか?

人見 私はとても恵まれているほうだと思えます。他県に一時住んでいましたが、ファミリーサポートのようところがなくて本当に困りました。

Q 利用していかがでしたか?

人見 子育て、人生経験豊富な方がサポートされるので、自分でみるよりとても安心でした。仕事が

度的にも恵まれていると思います。

Q 最後に働く女性たちへメッセージがあればお聞かせ下さい。

人見 何もかも一人で背負って頑張る過ぎないということです。経験豊かな先輩女性の方々へ、一時的にでも子育てのサポートを任せてみるのも、子育てと仕事の両立のいい方策です。子どもにとってもプラスになります。

ファミリーサポートへの十分な理解がないため、中には間違った思い込みや認識で、せっかくのチャンス逃してしまう方もおられるようですが、これはすばらしい制度です。お互いに信頼しあって、人間関係の絆を結び合う。子育てしながら働く女性の方へ大いにお勧めします。

(取材：辻本・畑山)

●サポートする人



▲石津久美子さん(山口ファミリーサポートセンター・山口市大富宮野地区サブリーダー)

1958年広島生まれ。福岡で過ごした後、7年前から山口在住。現在はファミリー・サポート・センターの援助会員として自宅を預かる傍ら、高齢者のお世話や、体操の指導など、人とのつながりを大切に、さまざまな活動を行っている。



▲18:00すぎ 石津さんのご家族も一緒に夕食。もえちゃんは完全に石津一家の一員といった感じがします。

Q 子どものお世話をするようになったきっかけは何ですか?

石津 ファミリーサポート自体はほとんど知りませんでしたが、サポート会員の友人がたまたま子どもを預かってくれる人を探していたので、1時間くらいの預かりから始めたのがきっかけです。それから間もなくしてファミリーサポートの会員への加入の話がきました。

Q 石津さんご自身が子育てをする際に、ファミリーサポートのようなくみを使われたことはありますか?

石津 福岡にいたときにはまだファミリーサポート・センターのようなものはなく、幼稚園の先生だった夫の上司の奥さんが、子どもをよく可愛がってくださいました。

私が何かあるときには子どもを預かってくれたりとか、ご飯を食べているときに呼んでくださる



▲19:40ごろ 夕食後のひと時、お母さんが迎えに来るまでトランプなどで遊びます。

たりとか、そういう気持ちがありがたくて、今のように子どもを安心して預けることができる場所があまりなかったため、ちよつと預かってもらうだけでも、救われたような気持ちにもなりました。その時の感謝の気持ちから、今度は自分が恩返しをしたいと思っていたんです。

Q 今まで何人くらいのお子さんを預かってこられましたか？

石津 はつきりとは分かりませんが、赤ちゃんから小学生まで20人くらい自宅で預かってきました。

Q 週にどのくらいお子さんを預かっていらっしゃるのですか？

石津

週に3回、子どもを預かっています。月曜日と木曜日はお迎えに行つて、自宅で夕食を一緒に食べます。人見さんのお子さんをみて、もう4年になります。1年生の2学期から預かっているので、第二の親・みたいな気分です。ご飯を家族と一緒に食べたり、食後は公園でバレーボールや縄跳びをしたりして過ごしています。

月曜日、火曜日、木曜日はほかに、学童保育が午後6時までなので、お母さんが6時過ぎに帰ってくる子どもを、30分くらいお預かりしています。

預かっている間は、なるべくテレビはつけなくて、オセロをしたりトランプをしたりして遊んでいます。「今日どうだった？」と聞いて、会話を楽しんでいます。お母さんと離れている時間が長い子どもだと、「おばちゃん、こうだったの！ああだったの！」と二気に話してくれるので、「ほんと？」「すごいね！」などと、しっかり話を聞いてあげることや、いいところを褒めてあげるように心がけています。

Q

週に3日預かっていますが、ご家族からの反応はいかがですか？

石津 預かるのを始めたときも、自分たちの子育てのときに良くしていた経験があるので、夫も「いいよ」って賛成してくれました。



▲20:15ごろ お母さんが迎えに来ました。

今では後押しをしてくれています。

月曜日と木曜日は預かる子どもと一緒にご飯を食べる日なので、午後6時半には夕食にすると決めておいて、その時間にはみんなで食べるようにしています。時間がまちまちになると家族も不満に思いますよ。

夫も娘も私が家事をしているときに子どもの話し相手になってくれますし、家族でできるだけ自然体で関わっています。

Q 赤ちゃんから小学生まで預かるので大変ではないですか？

石津 最初は戸惑いましたけど、子育ての経験があるので、自分の娘が小さかったときのことを考えながら接しています。子どもと関わることでエネルギーをもらっています。自分の子どもとのときはつい感情的

になつてしまうこともありましたが、人様の子どものことで感情的にならずにもっと冷静にみることでできます。今思えば「自分の子育ての時、なんであんなことを言ったのかなあ」って思うこともたくさんあります。

自分の子どもに対しての教育にもなっています。おむつを着けた子どもを預かったときに取り替えてあげるのを娘が見ていたりと、「自分が小さいときはこうだったんだね」って言うんです。「そうよ」って言いながら、娘の幼い頃を振り返って話したりもします。

子どもをお返しするときには、笑顔で帰ってもらいたいという思いがあります。その子の長所を見つけて褒めるようにしています。

Q

子どもを取り巻く環境に変化はありますか？

石津

私たちが子育てをしていた時は、公園や広場で子どもが外遊びをしていたのを見かけましたが、今は、外で遊んでいる子どもをあまり見かけなくなりました。治安が悪くなったり、塾に通ったり子どもが忙しくなりました。地域との接点がだんだん希薄になっているのを感じます。今では遊べるところが限られています。ボール遊び禁止という場所も多くあります。

Q 子どもは地域に出て行くことで、社会との接点が生まれるんですよね。

石津 昔は地域の大人が見守っていたけれど、最近では犯罪が心配だから、なかなか外に出ないし、出られない。

以前はお迎えがいらなかった距離でも、今ではお迎えが必要なこともあり。特に入学したばかりの4月頃は、親御さんも心配されているようです。

Q 子どもを預かっている方はどんな方が多いのですか？

石津 ご夫婦でみられている方もけっこうおられますし、今、子育て中の方でも、自分の子育てと並行して行っている方も多いです。

Q もっとこうしていきたい、社会がこう変わってほしいということはありませんか？また、これからの展望も聞かせてください。

石津 預かってみて、お母さんが置かれている現状が見えてきました。今のお母さんとはかく忙しいんだなと思います。学童保育やファミリーサポートなどに預けるお母さんが年々、増えています。保育園の待機児童も多くなっています。そのことから分かりますね。その半面、お父さんが協力している家庭も多いですね。ご飯を作ってく

れたり、子育てに夫婦で積極的にかかわっている家庭も多く見られます。

山口県に住んで7年。家族は地域に生かされているので、地域を良くしたい、ありがたいという感謝の気持ちがあります。これからもファミリーサポートや、地域の活動に積極的に参加していきたいですね。

石津さんの語りかけるような優しい言葉や笑顔に、私たちも惹きつけられました。サポートする人、される人、人となりが、かかわることがより良い環境作りへの第一歩ではないでしょうか。

(取材：上田・河谷・藤原)

ファミリー・サポート・センターとは…？

育児を援助してほしい人と援助したい人が会員となり育児を助け合う組織。県内には山口のほか、下関、宇部、周南、萩、防府、下松、岩国、光、柳井などにセンターがあります。

継続的に預かるだけでなく、仕事の都合や病気などで一時的に託児が必要になったときでも対応できます。会員となるための資格は不要。預かる場所は原則として自宅です。

詳しくは山口県商工労働部労働政策課へ。

(0903-0903-0903)

<http://www.pref.yamaguchi.jp/cms/a15900/fami-supo/05.html>

個人での取組 企業組合農村レストランひまわり

夢に向かって具体的な行動を起こす人も増えています。夢の実現方法もさまざまです。今回は、夢を起業という形で実現した方にお話を伺いました。



▲企業組合農村レストランひまわり 理事長 山下美佐子さん

1936年生まれ。山口市名田島に来て、50年。84年に大豆加工品を製造する名田島農産物加工センターを設立。2005年8月18日に地産地消にこだわった念願のレストランをオープンさせた。

Q なぜ名田島にレストランをオープンさせようと思ったのですか？

山下 減反が始まった昭和40年代後半から名田島では大豆を作る農家が増え始め、それぞれの集落で豆腐作りが盛んになってきたのですがなかなかうまくいかず、1984年に、大豆を持ち寄って豆腐や味噌を作る名田島農産物加工センターをつくりました。レストランを開くまでは私が責任者をしていました。せっかくなので地元産のおいしい加工品を

作っているの、いつかはそれらを使った料理を出すお店をやってみたいと思っていました。

まず、10年くらい前から「ひまわり」という名前で、12〜13人でうどんやカレーを作って売り、資金を集め始めました。

お店の場所として、なかなか良いところが見つかりませんでした。良いと思うところは家賃が高いし、農家を改造してやろうとも思ったんですが手間がかかる。あれこれ探しているうちに、今の場所が貸し店舗になっているのを見つけ、「ここだ！」と思ってすぐに借りに入ったんです。05年の6月末のことです。

Q オープン直前ですね。準備や資金は間に合いましたか？

山下 うどんなどを売っていた「ひまわり」のメンバーが、家庭の事情や、高





▲ひまわりのみなさん。店内は、いつも明るい声が飛び交います。

齢になってきたこともあってそのま
まレストランには移れませんでした。
そのため貯めていた資金が使えず、
この家賃にも困りました。

レストランで働くことになった「ひ
まわり」のメンバー4人の出資では
足りないの、県やさまざまな機関
に、資金が借りられるかどうか相
談に行ったんですが、すでに打ち切
られていた補助金もあり、資金を得
ることはできませんでした。

けれども、企業組合という形態
を紹介されて組合を結成し、ほかに
3人から出資を募り、オープンにこ
ぎつけました。

Q 何か苦労されたことはありますか？
山下 なかったです。資金を集めるのに
は手間取りましたが、今はお客さん
も増えてきていますし。大変なこと

もありますが、夜は営業していないの
で、女性だけでも十分にやっています。
す。力仕事もそんなにないですしね。
しかし、最初の1年間は理解し
あえるまでに時間が必要でした。

10年前からの付き合いでお互いに
解かっているようで解かっていたなかっ
た部分がありました。オープンか
ら2年経って、解かり合えるようにな
り、今は楽しく働いています。

Q こだわっていることはありますか？
山下 大豆の加工を始めたころはまた「地
産地消」という言葉もありません
でしたが、名田島産のものを食べて
農村の良さを知ってほしいと思ってい
ますので、お米や野菜や魚も名田島
や近くで採れたものを使っています。
献立もヘルシーで野菜中心なので、
年配の方や女性のお客さんが多いで
すね。野菜を食べようと思つて来ら
れる男性のお客さんもいます。今の
人はあまり野菜を食べないように
思います。中には肉は少なめにし
て野菜を多くしてほしいと言う方
もいらっしやいますよ。

Q これからの展望を聞かせてくだ
さい。
山下 名田島は穀倉地帯で、麦も生産
しています。「西のかほり」という
県のブランドです。これを使ってパン
を作ってみたいなと考えています。
今はモーニングを出していないので、

ぜひ、「西のかほり」でつくったパン
でモーニングを出してみたいですね。

Q 最後に、これから起業したいと
いう女性にアドバイスを聞かせ
下さい。

山下 資金の面は大変ですが、私たち
は店を借りてからオープンまでに
1ヶ月ちょっとしかありませんでし
た。スピード開店だったからよかつ
たのかもしれない。半年や1年
あつたら、もしかしたら、オープンで
きてなかったかもしれない。後で
思うと、時間がなかったことも幸い
したんじゃないかなと思います。
夢を持って前向きに考えてきた
から、すぐに動くことができました。
いつかは実現できると思つて、夢を
持ち続けていくことが大切です。

取材した日もランチが売り切れるほ
どの人気でした。「最近売り切れる
ことも多いんですよ」と山下さん。野
菜たっぷりのヘルシー料理と、気さくな
笑顔あふれる空間でリピーターが多い
のも納得。これからの地元こだわった
料理を出し続けてほしいですね。

(取材…上田・花形)

女性には、人生において結婚、出産、育児など転機が多くあり、それによつて仕事や夢の実現などに影響を受けてしまうことがあります。それらを個人だけの問題にするのではなく、行政や企業、コミュニティが共有し、男女共同参画社会の実現を目指して、女性の様々なチャレンジを支援していく必要があります。

企業組合 農村レストランひまわり

設立及び開店/2005年8月18日
所在地/山口市名田島343-12
出資者/7人(うち4人がレストラン勤務)



▲農村レストランひまわりも認定されている「やまぐち食采店」は山口市産の農水産物等を食材として、積極的に利用するお店です。

企業組合とは…？

出資者が最低4人から設立できる組合で、資本金の制限はありません。ただし、出資者の半数以上は組合の仕事に従事しなければならず、また、従業員の3分の1以上が出資者である必要があります。